

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770097

研究課題名(和文)板木を核とした出版記録の再読解と出版記録データベースの構築

研究課題名(英文) Rereading the publishing records by focusing on the printing block, building the database for publishing records

研究代表者

金子 貴昭 (KANEKO, Takaaki)

立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授

研究者番号：20411150

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、板木が江戸時代における出版機構の根本装置であったことに鑑み、これまで本の出版の記録として読まれてきた出版記録を、「板木」をキーワードに再読解することを試みるものである。それにあたり、すでに活字化されつつも、これまで索引が存在しておらず、活用が難しかった出版記録、および未翻刻である出版記録のテキストデータアーカイブおよびデータベースを構築するとともに、板木デジタルアーカイブ、板本デジタルアーカイブの拡充を進め、近世出版総合データベースのスキームを構築した。

研究成果の概要(英文)：The printing blocks were the fundamental tool of the commercial publishing in Japanese early modern era (from 17th to 19th century). Therefore, this research tried to read the publishing records paying attention to how the printing blocks were treated in the realm of the commercial publishing. Accordingly, this research have built text data archive of the publishing records, expanding digital archives for printing blocks and printed books. Combining them, the project developed a comprehensive digital archive of early modern publishing in Japan.

研究分野：近世出版

キーワード：板木 版木 板本 版本 出版記録 デジタルアーカイブ データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 近世は商業出版の時代であり、大量に現存する当時出版された本 = 板本(はんぼん)は、近世期の各分野研究における基礎資料となってきた。一方、板本を印刷するための版であった板木(はんぎ)は、整理すらなされない状態だった。しかし、研究代表者の研究(『近世出版の板木研究』、2013、法蔵館)や、永井一彰氏の研究(『板木は語る』、2014、笠間書院 本研究開始後にまとめられた)により、板木の観察方法、既存の板本書誌学の理解を超える板本観察の手法が、学界において認知されつつあった。また、研究代表者が進めた板木デジタルアーカイブ構築・公開により、板木は研究資料として学界に流通し始めていた。

(2) 研究代表者は、科学研究費補助金(08J55612、23820071)により、板木デジタルアーカイブに取り組んできたが、国内外の板木現存量に照らし、デジタル化を為し得たのはごく一部に過ぎず、今後もデジタルアーカイブ構築を継続し、拡充していく必要性があった。

(3) 近世出版においては、出版を生業とする板元(出版元)や本屋仲間(同業者組合)が存在し、それらが書き留めた、出版に至る経緯・板株(版権)をめぐる争論・板木所有記録(蔵板記録)等の記録が現存する。当時は、板木の所有 板株の所有であり、記録には板木の運用に関わる内容が多分に含まれる。従って「板木」という視点無しに記録内容を読み解くことはできないが、これらの記録は本の出版記録や出版機構の構成という視点に偏重した読解がおこなわれてきた。

(4) (3)の背景を受け、「板木」をキーワードとして出版記録を読解すれば、近世出版機構の具体像をあぶり出し、その実態に迫ることができるかと判断したが、より克明に実態に迫ることができるよう、既存の板本・板木デジタルアーカイブと連動する形で出版記録のテキストデータベース化を図る必要があった。

2. 研究の目的

上述の背景に照らし、本研究においては、

- (1) 板木デジタルアーカイブの拡充継続
- (2) 出版記録のテキストデータデジタルアーカイブ構築とデータベース構築
- (3) (2)を通じた出版記録の読解と板木を核とした近世出版機構の実態解明の3点を目的とした。

3. 研究の方法

上述の研究目的に照らし、

- (1) 株式会社法蔵館所蔵板木のデジタルアーカイブ継続

- (2) 美術書出版株式会社芸艸堂所蔵板木のデジタルアーカイブ継続
- (3) 本山佛光寺所蔵板木のデジタルアーカイブ着手
- (4) その他、個人所蔵等コレクションの板木デジタルアーカイブ実施
- (5) 公刊された本屋仲間記録や個々の板元の出版記録のテキストデータアーカイブの構築
- (6) 未翻刻の出版記録調査と翻刻およびテキストデータアーカイブの構築
- (7) 板木や出版記録に対応する板本デジタルアーカイブの構築
- (8) 上記(1)~(7)における板木・板本・出版記録の各データベースの連携を方法として、本研究にのぞんだ。

4. 研究成果

(1) 株式会社法蔵館所蔵板木のデジタルアーカイブ構築を継続した。研究期間中、板木410枚のクリーニング作業・採寸・重量計測・デジタル撮影を実施し、7,045カットのデジタルアーカイブ構築をおこなった。また過年度と合わせ、画像27,087枚による板木1,425枚のデジタルアーカイブとなった。

(2) 美術書出版株式会社芸艸堂所蔵板木のデジタルアーカイブ構築を継続した。研究期間中、板木516枚のクリーニング作業・採寸・重量計測・デジタル撮影を実施し、4,848カットのデジタルアーカイブ構築をおこなった。また過年度と合わせ、画像16,206枚による板木1,657枚のデジタルアーカイブとなった。

(3) 本山佛光寺所蔵板木のデジタルアーカイブ構築に着手した。研究期間中、板木1,506枚のクリーニング作業・採寸・重量計測・デジタル撮影を実施し、22,235カットのデジタルアーカイブ構築をおこなった。

(4) 板元・伊藤甲造旧蔵板木(個人所蔵)のデジタルアーカイブ構築に着手した。研究期間中、板木474枚のクリーニング作業・採寸・重量計測をおこなった。デジタル撮影については、研究期間終了後に機会をとらえて実施することとなる。

(5) その他、個人所蔵等の小規模コレクションの板木デジタルアーカイブ構築を実施した。クリーニング作業・採寸・重量計測・デジタル撮影を実施し、画像1,026枚による板木85枚のデジタルアーカイブとなった。

(6) 上記(1)~(5)について、研究代表者が運営するwebデータベース「板木閲覧システム」に登録をおこなった。2016年3月末時点で、20,243レコード(板木枚数)

まで増加した他、適宜メタデータの拡充をおこなった。

(7) 京都書林仲間記録の『京都書林行上組済帳標目』、『京都書林行上組重板類板出入済帳』、『十番 諸証文』、『諸証文標目』、『他国版売出添状証文帳』、『板木株目録』、『大坂本屋仲間記録の『出勤帳』、『裁配帳』、『差定帳』、『鑒定録』、『備忘録』、『仲間触出留』、『京江戸書状之控』のテキストデータアーカイブ構築をおこなった。また個別板元の記録として、『竹苞楼大秘録』、『竹苞楼秘録』、『蔵板記』、『文政堂蔵板目録』のテキストデータアーカイブ構築をおこなった他、未翻刻資料では沢田友五郎の出版記録と考えられる京都大学附属図書館所蔵『京都書籍出版文書』、佐々木惣四郎の『蔵板仕入簿』等の翻刻とテキストデータアーカイブ構築を進めた。

(8)(7)のテキストデータアーカイブ構築を受けて、一部については、書名・記事年月・「重板」「類板」などの記事分類といったメタデータを付した上で出版記録データベースの試作版を構築したが (fig.1) 全文検索可能な索引システムがより適切との判断に切り替え、研究期間終了後も継続してツール選択等を進めていくことになる。

fig.1 出版記録データベース試行版

(9) 板木および出版記録に関連する板本のデジタルアーカイブ構築をおこない、立命館大学アート・リサーチセンターが運営する「ARC 所蔵・寄託品 古典籍データベース」に登録し、公開した。

(10) 上記(6)(8)(9)は、「板木閲覧システム」から各データベースへのリンクを設ける形で「近世出版総合データベース」試行版を構築した(非公開)。板木・板本の連携は当該研究期間までに完成された状態で運用できているが、出版記録については今後(8)の完了を待って実現することとなる (fig.2、各レコード右端のボタンから出版記録データベースの関連レコードを検索可)。

fig.2 近世出版総合データベース試行版

(11)(10)のスキームを活用した「板木」をキーワードとする出版記録の再読解、近世出版機構に対する理解の再構築をおこなった。これらにより得られた知見は、適宜公表した。

(12) 東アジア地域には、日本以外にも木版による印刷・出版が盛んであった国がある。本研究の将来的な東アジア比較板木研究への発展を見据え、その可能性を追求した。具体的には、2014年度に創設された東アジア木版国際学術会議および国際木版保存研究協議会への参加(2015年3月)、韓国古版画博物館と研究代表者が所属する立命館大学アート・リサーチセンターの相互訪問(2015年4月、2016年3月)により、東アジア各国の木版分野研究者との交流をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

金子貴昭、書籍の看板、俳文学研究、査読無、65号、2016、pp.4-5

南川丈夫、永井大規、金子貴昭、谷口一徹、竹中健司、他2名、ラマン散乱分光イメージング法による多色摺木版画の色材分子分布解析法の開発、情報知識学会誌、査読有、vol.26、No.1、2016、pp.1-10 DOI: 10.2964/jsik_2015_021

金子貴昭、二〇一五 東亜細亜木版国際学術会議「記録遺産と木板文化」「日本近世期の板木保存状況と板木デジタルアーカイブによる保存・活用」発表抄録、温故叢誌、査読無、69号、pp.52-56

金子貴昭、永井一彰『板木は語る』笠間書院、図書新聞、査読無、3174号、2014、p.5

大出彩、松本文子、金子貴昭、流行歌から見る歌詞の年代別変化、じんもんこん2013 論文集、査読有、2013(4)、2013、pp.103-110
<http://id.nii.ac.jp/1001/00096404/>

Takaaki Kaneko、Digital Archiving Printing Blocks and Establishing Woodblock Bibliography、Scholarly and Research Communication、査読有、Volume 3、Issue 4、2013、16pp.
<http://src-online.ca/index.php/src/article/view/66/216>

〔学会発表〕(計7件)

金子貴昭、板木観察と出版研究、「官版日誌類に関する史料学の構築および戊辰戦

争期の情報と地域に関する学際的研究」
公開研究会（平成 27 年度）2016 年 2 月
11 日、立命館大学アート・リサーチセン
ター（京都府・京都市）

金子貴昭、板木による板株管理の成立前
後、京都俳文学研究会 11 月例会、2015 年
11 月 21 日、龍谷大学大宮学舎（京都府・
京都市）

金子貴昭、日本近世期の板木現存状況と
デジタルアーカイブによる保存・活用、
2015 年 3 月 27 日、東アジア木版国際学術
会議、ソウル大学校湖巖教授会館（韓国・
ソウル特別市）

金子貴昭、板木の整理さまざま 附 板株
と奥付、2013 年度第 7 回 DH セミナー、2013
年 12 月 3 日、立命館大学アート・リサー
チセンター（京都府・京都市）

金子貴昭、板木データベースの可能性
データベース連携のことなど、2013 年 11
月 30 日、第 19 回公開シンポジウム「人
文学とデータベース」、立命館大学ア
ート・リサーチセンター（京都府・京都市）

金子貴昭、書籍の看板と板株 享保以前
、2013 年 10 月 26 日、2013 年度日本出
版学会秋季研究発表会、関西学院大学大
阪梅田キャンパス（大阪府・大阪市）

金子貴昭、板木研究の現在 - 到達点と課
題、2013 年 6 月 27 日、日本出版学会第
78 回関西部会、関西学院大学大阪梅田キ
ャンパス（大阪府・大阪市）

〔図書〕（計 3 件）

赤間亮 他、勉強出版、文化情報学ガイド
ブック 情報メディア技術から「人」を
探る、2014、216（67-71）

京都・大学ミュージアム連携合同展覧会
実行委員会 他、京都・大学ミュージアム
連携、大学は宝箱！ 京都・大学ミュージ
アム連携の底力 出開帳 in 東北、2014、
39（28）

永井一彰 他、奈良大学博物館、板木さま
ざま：芭蕉・蕪村・秋成・一茶も勢ぞろ
い、2013、30（4-6、21-24）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

板木閲覧システム

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/db/hangi/>

ARC 所蔵・寄託品 古典籍データベース

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/db1/books/search.php>

金子貴昭、立命館大学アート・リサーチ
センターのデジタル・アーカイブ活動、
文化庁シンポジウム「文化資料アーカイ
ブ入門～将来の芸術文化の発展に向けて
～」、2016 年 3 月 24 日～2016 年 3 月 26
日、コクヨホール（東京都・港区）・金沢
工業大学酒井メモリアルホール（石川
県・野々市市）

金子貴昭、印刷・出版からデジタルア
ーカイブへ、第 3152 回立命館土曜講座、2016
年 1 月 9 日、立命館大学末川記念会館（京
都府・京都市）

金子貴昭、近世出版の板木、第 20 回立命
文華会（（公財）奈良市生涯学習財団、立
命館大学奈良県北部校友会「立命文華会」
共催講座）2015 年 11 月 14 日、奈良市中
部公民館（奈良県・奈良市）

板木に伝わる出版事情 若手研究者が調
査研究 法蔵館、文化時報、2014 年 9 月 3
日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 貴昭（KANeko, Takaaki）
立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授
研究者番号：20411150

(2) 研究分担者

なし（ ）

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし（ ）

研究者番号：